～自分で考え　友達と一緒に活動し　振り返りのできる子～

学校だより 2月

令和５年１月３１日
荒川区立
峡田小学校
校長　津田　利枝

あなたの“いいところ”

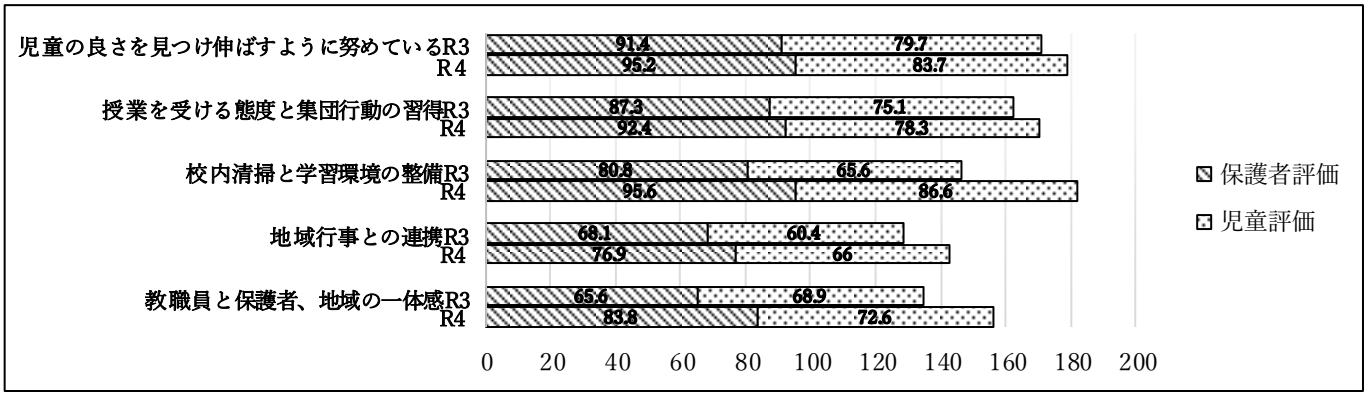
主幹教諭　樋口　稔

「ボクは、あなたの“いいところ”を100個言えます。」

これは、昔ドラマで見た、とても心に残っているフレーズです。ドラマでは、“いいところ”を次々に言われた人が、一見「あたりまえ」のことを言われ、「それって“いいところ”なんですか？」と、はにかみながら聞き返します。でも、何だかとても嬉しそうなのです。

“いいところ”ってなんでしょう。私なりの解釈ですが、特技や秀でたことではなく、「いい顔でいる」「自然体で暮らす」ことなのでは、と辿り着きました。友達と遊ぶ。給食当番をする。ノートをとる。手を挙げる。名札を付ける。気付いたら直す。お喋り大好き。おいしそうに食べる。信号を守る。楽しい時に笑う。よく寝る。・・・日々を、気持ちよく過ごせるのは、その人の“いいところ”なのです。

12 月に実施した『学校評価アンケート』で、保護者の方と全校児童の回答で、「よくあてはまる」「あてはまる」が、どちらも前年より３ポイント以上高かったのは、以下の項目でした。（上段と下段で比べています。）



１ つ目に挙がった「児童の良さを見つけ伸ばす」視点は、教育活動全般において、常に私たち教師が心掛けていることです。子供たちの学校生活を肯定的に認めていくことは、子供たちの自信につながります。でも、この良さは、特別な成果に対するものばかりではありません。

人とつながることが難しい、窮屈だった日常から、平穏な日々に戻ってくると、“あたりまえ”と思っていたことが、実はとても素敵なことなのだと痛感します。あたりまえは、ものすごく賞賛すべきことなのです。そういう目で見ると「元気な顔で、学校生活を送っている」令和４年度の子供たちは、“いいところ”に満ち溢れ、たくさんの良さを見つけることができます。授業然り、学校行事然り、学びと友達との時間を手にした子供たちは、それだけでキラキラしていました。

子供たちが“良さを出して”成長するために、私たち大人も、子供たちの“良さを発見できる”目をもたなければなりません。それを改めて認識し、今後も大切にしたいと考えた今年度です。

どんなすばらしいパフォーマンスも
日々のあたりまえのつみかさねが
あるからできるのだと思う。

そのほか４つの項目も、これまでの教育活動の形に戻ってきたからこそ、子供たちの健やかな成長が実感でき、評価されたことのように思います。卒業・学年の修了まで残り２か月です。学校評価を踏まえ、一人ひとりの“いいところ”が輝いた１年のまとめと、30 周年を迎える来年度に向け、峡田小は成長し続けています。

学校評価アンケートの結果については、後日改めてお知らせします。